



デンマークの高齢者住まいにおける歴史的変遷

1987年以前 プライエム



介護や医療など
すべてのサービスが付随した
高齢者施設「プライエム」。

特別養護老人ホーム等に
相当

1988年以降 エルダボーリ



1988年以降プライエムの
新規建設が禁止
高齢者住宅「エルダボーリ」の建設へ
「介護と住宅の分離」。
高齢者福祉政策における「施設」から
「住宅」への政策シフト。

介護は外部サービスを利用する
高齢者住宅、ケアハウス等に相当

1990年代後半 プライエボーリ



介護職員が常駐していないと
要介護状態の高齢者介護はできないと判明
介護サービス付き高齢者住宅
「プライエボーリ」を導入。
「揺り戻し」にもみえるが、住宅でも常時の
介護を受けられるという点は継続されてい
る。

サービス付き高齢者向け住宅、
有料老人ホーム等に相当

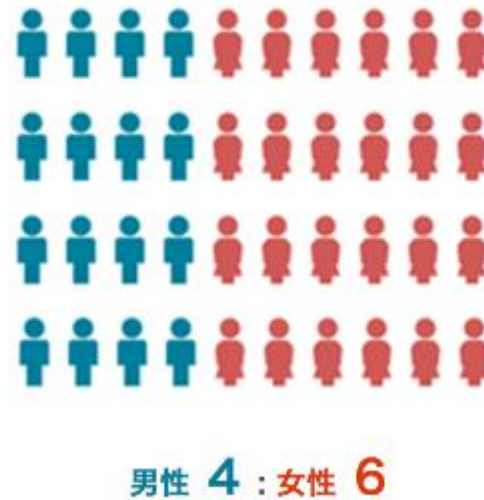
銀木犀＜西新井大師＞

入居者情報 (2017年5月現在)

●年齢層別人数分布



●男女別人数分布



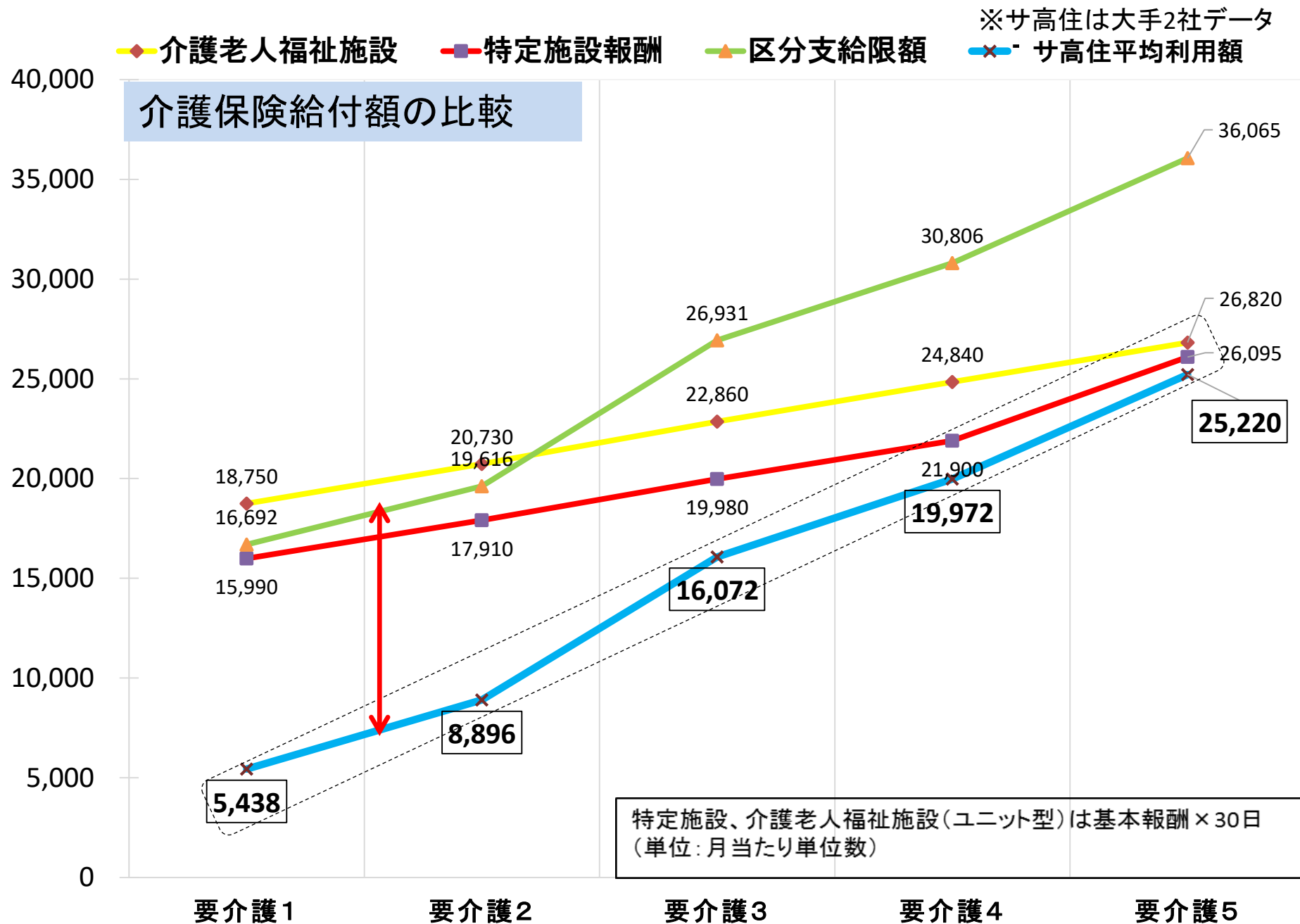
●要介護度分布



■	自立	1.8%
■	要支援 1・2	12.9%
■	要介護1	20.3%
■	要介護2	25.9%
■	要介護3	18.5%
■	要介護4	12.9%
■	要介護5	7.4%
■	不明	0.0%

平均要介護度 1.94

特養・特定施設・サ高住の介護報酬額比較(要介護度別)



介護保険平均利用率

銀木犀＜西新井大師＞
平成29年6月 53名入居

介護度	人数	割合	限度額	銀木犀のみ		合計 (デイ・訪問など含む)	
				平均 利用単位	限度額 利用割合	平均 利用単位	限度額 利用割合
自立	1	1.9%	－	－	－	－	－
要支援1	4	7.5%	5,003	1,793	35.8%	1,793	35.8%
要支援2	4	7.5%	10,473	299	2.9%	299	2.9%
要介護1	10	18.9%	16,692	6,390	38.3%	7,433	44.5%
要介護2	17	32.1%	19,616	7,716	39.3%	9,918	50.6%
要介護3	8	15.1%	26,931	13,787	51.2%	17,223	64.0%
要介護4	7	13.2%	30,806	16,123	52.3%	24,888	80.8%
要介護5	2	3.8%	36,065	30,857	85.6%	33,273	92.3%













だ

か

し

り

おむすびの店
おむすびの店
おむすびの店









駄菓子屋の最高売り上げ
「49万円！/月」





「仕事付き」サービス付き高齢者向け住宅



※イメージ図ですので、実際とは異なります

「仕事付き」サービス付き高齢者向け住宅



The image shows the interior of a room during renovation. The ceiling is made of horizontal wooden planks. The walls are white with a dark wood paneling at the base. Large windows with dark frames line the back wall, offering a view of a residential neighborhood with houses and trees. The floor is covered with reddish-brown square tiles. On the left, there are stacks of cardboard boxes and a small step ladder. On the right, a person in a dark jacket and a blue bag stands near a large window, looking out. A tall, silver A-frame ladder with the brand name 'ALINCO' is leaning against the wall on the right. The text is overlaid on the lower left portion of the image.

恋する豚研究所 Lunch Table 併設
「仕事付き」サービス付高齢者向け住宅 銀木犀<船橋夏見>
2109年5月オープン



社会保障前提の福祉事業ではなく、継続性が担保されたビジネスモデルに福祉的要素を載せていくこと。

様々な社会問題を限られた業界だけで解決に導こうとするのではなく、日本中のビジネスセクターがほんのすこしだけ福祉的要素を事業に取り入れてくれたら、この日本社会は劇的に変わると信じる。

SHIP" Shinjuku Healthcare Incubation Park" 特別企画 『シンギュラリティ時代の介護と多様性』のご案内

情熱大陸でも取り上げられ、その活動内容から、『現代の魔法使い』と呼ばれている落合陽一と建築・介護・VRと多岐にわたる活躍から『高齢社会の切り札』と呼ばれる下河原忠道の対談を行います。



■対談内容

- ①対談者紹介
 - ②介護再興戦略
 - ③ダイバーシティ
- 現在の介護業界の問題点 - 5Gが介護に何をもたらすのか - サービス付き高齢者住宅 - aic
- 現在のダイバーシティの問題 - 身体ダイバーシティを埋める仕組み - 心のダイバーシティを高める aic

■対談者、モデレーター紹介

・落合陽一

筑波大学情報学群情報メディア創成学専攻でメディア芸術を学び、東京大学で学際情報学府にて修士号を取得。2015年より筑波大学助教。映像を超えたマルチメディアの可能性に興味を持ち、映像と物質の接点を再構築する表現を計算機物理場(計算機シミュレーション)によって実現するなど、デジタルネイチャーと呼ばれるビジョンに基づき研究に従事。

・下河原忠道

株式会社シルバーウッド代表取締役であり、財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会の理事。株式会社シルバーウッドでは、産学協同研究で生み出した自社工法スチールパネル工法の販売・サービス付き高齢者向け住宅【銀木岸】の運営・【VR認知症】などのVRコンテンツの開発を行う。

・木野瀬友人

慶応大学を卒業し、株式会社ニワゴの取締役として日本のインターネット界を牽引して来た。現在は、株式会社エクストーンの取締役の傍、日本うんこ学会という同人団体にて、大腸がん検診啓発ゲーム「うんコレ」の開発を行う。

■SHIP" Shinjuku Healthcare Incubation Park" とは

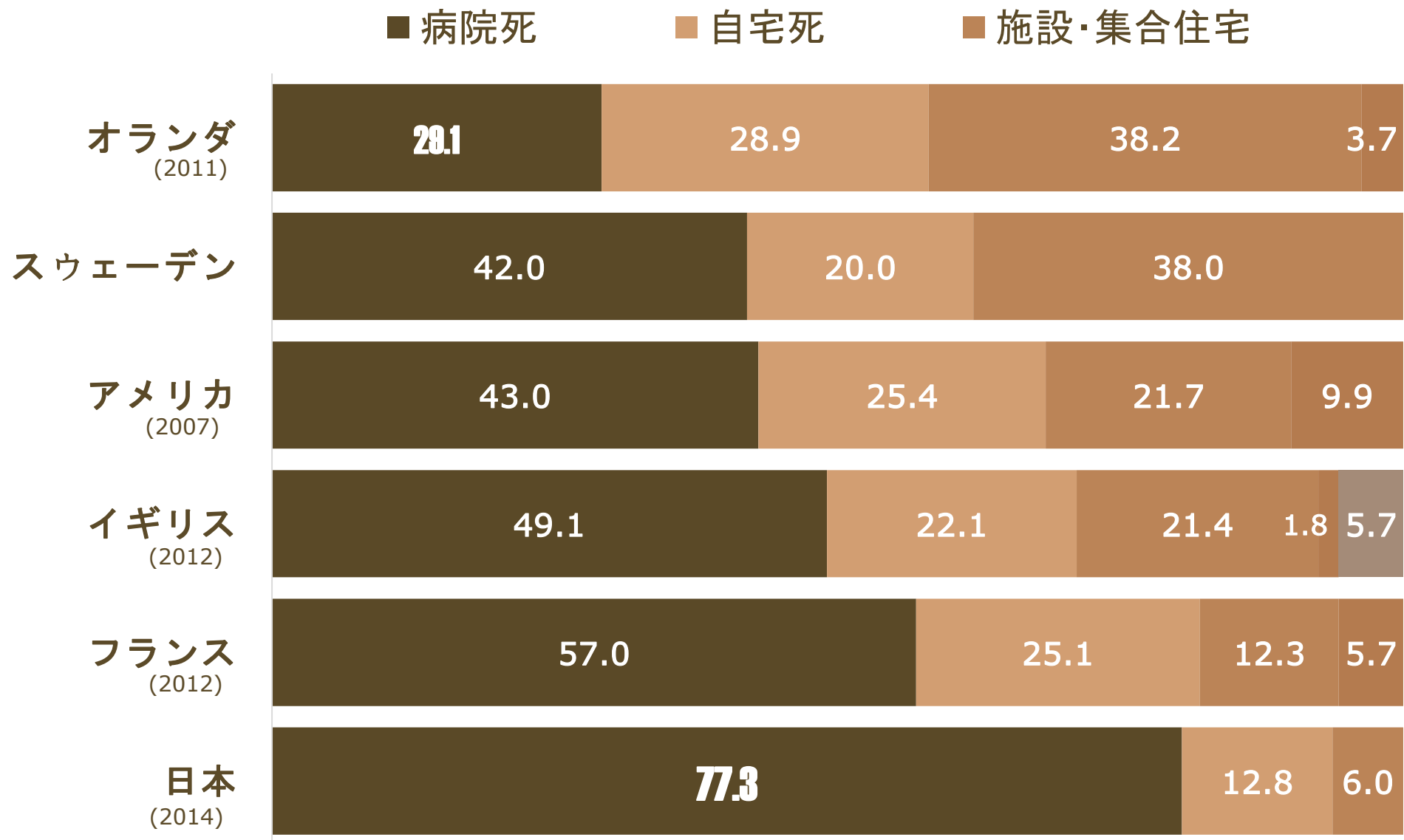
SHIPは、医療ヘルスケアに特化した新規事業開発支援のためのオープンなインキュベーションHUBです。NPO等のSocial goods活動はすべて支援対象としています。

■問い合わせ先

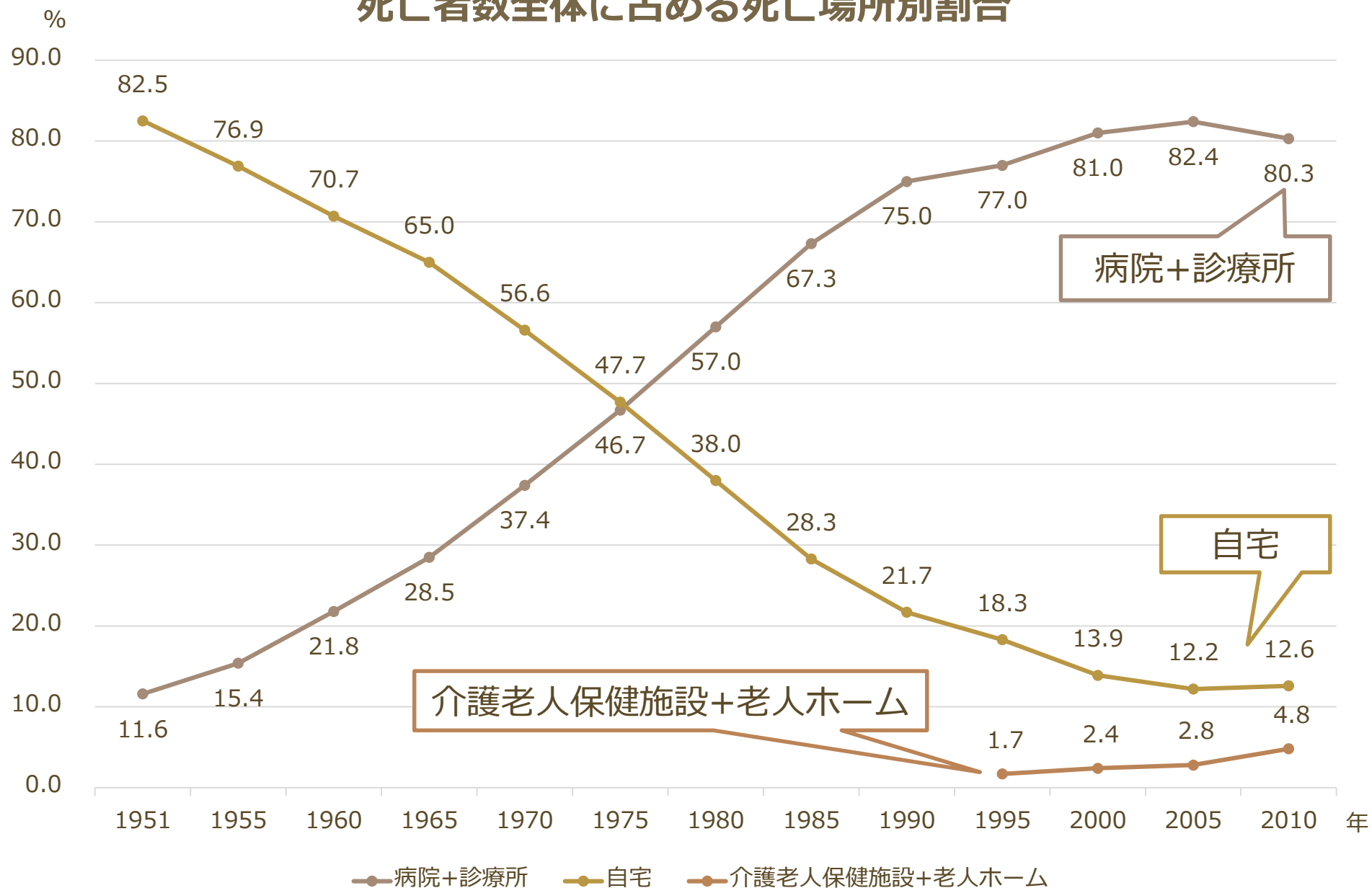
株式会社シルバーウッド、SHIP事務局 (sho@silverwood.co.jp)



際立つ「看取りができない」日本の現状



死亡者数全体に占める死亡場所別割合

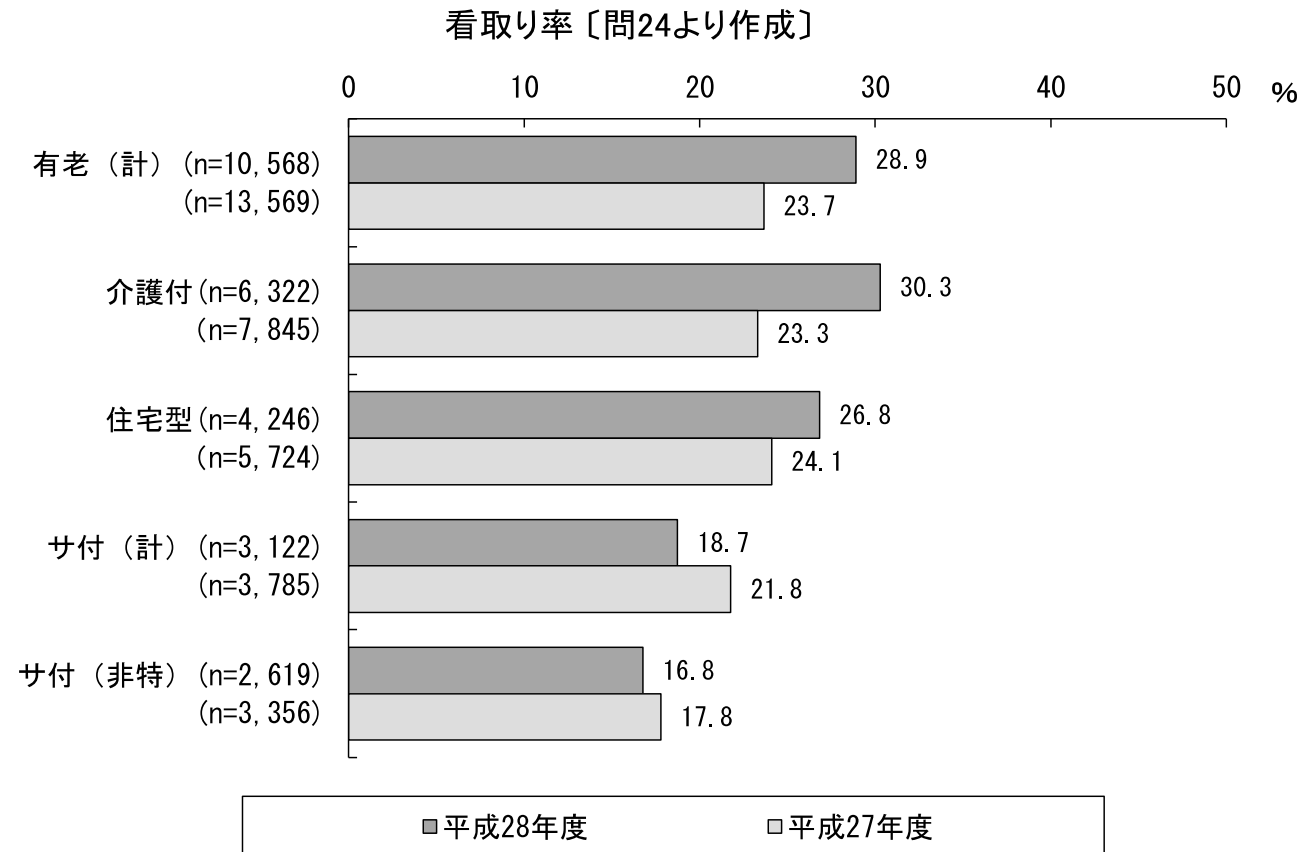


注) 1994年までは老人ホームでの死亡は、自宅又はその他に含まれる。 出典) 厚生労働省 平成23年「人口動態調査」死亡の場所別にみた死亡数・構成割合の年次推移

積極的な医療を提供できる高
齢者施設よりも、できる限り医
療の介入を絶って、**自然な老衰
死を多職種で共に目指す**高
齢者住宅が必要な時代。

看取り率

看取り率は、介護付では30%、住宅型で27%、サ付住宅で17%。
有料老人ホームでは看取り率が上昇傾向。



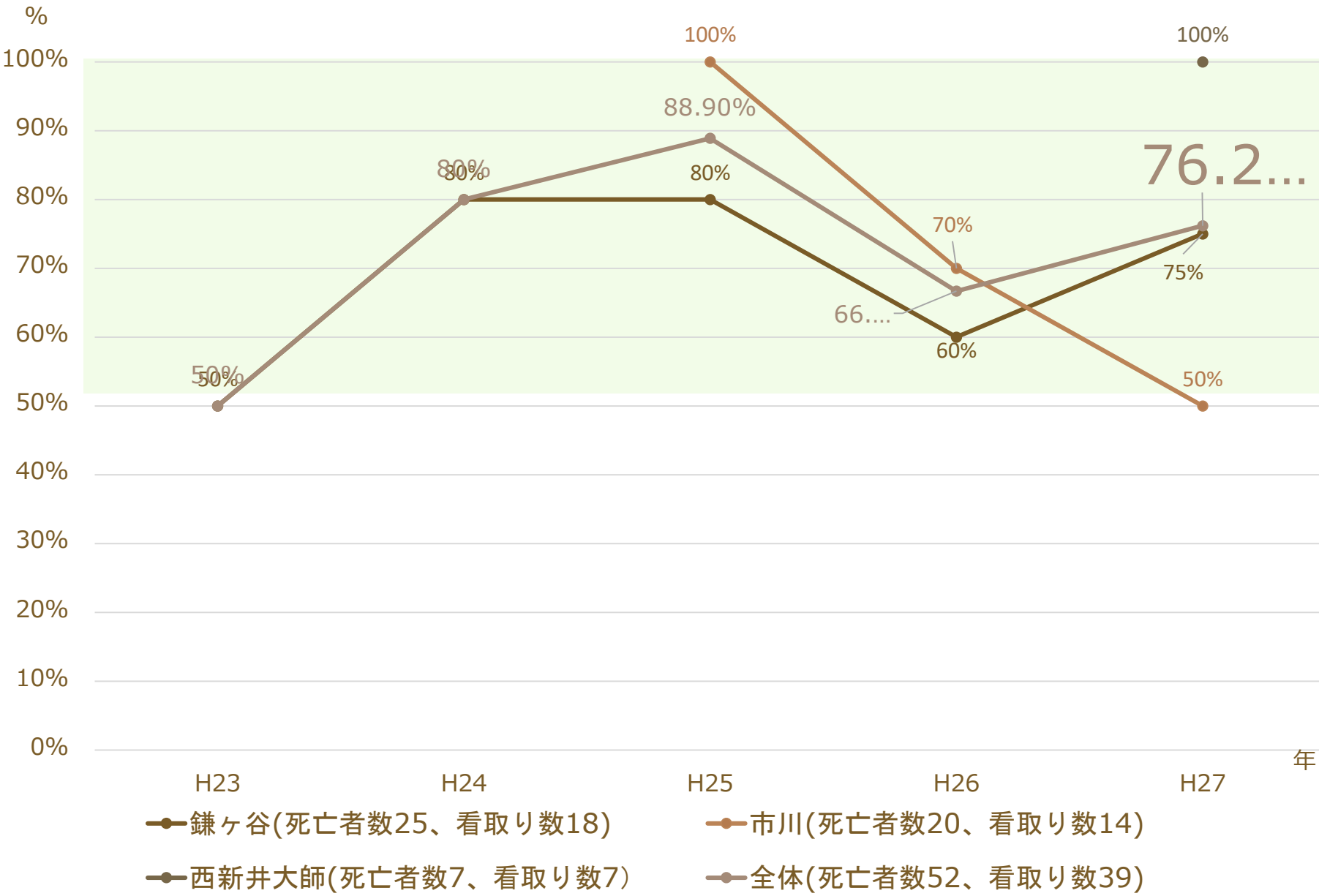
看取り率が高いホームの特徴

主に、以下のような特徴が見られる。

結果的に

- ✓ 看取りに積極的なホームで看取り率が高い。
- ✓ 職員体制が手厚いホームほど看取り率が高い・・・ように見えるが、看取りを受け入れる方針のホームでは看取り率が高い。
⇒ 看取りに対し積極的なホームで、それに見合った体制がとられている、と考えられる。
- ✓ 看取り指針、マニュアル、研修、振り返り等が実施されているホームで看取り率が高い。
⇒ 看取りに対し積極的なホームで、これらの整備・実施が進んでいる、と考えられる。

銀木犀＜ホーム別＞看取り率







救急搬送を防ぐために重要なのは、医学的管理のみならず、療養環境そのもののエンパワメントが重要。
まさに介護職、家族の意識改革が必要。

平成30年度老人保健健康増進等事業 高齢者向け住まいにおける看取り等の推進の ための研修に関する調査研究事業

「高齢者向け住まいにおける看取りが〇進みにくい要因の一つとして、介護職員等の看取りに対する理解が進んでいないことが考えられる。このため、高齢者向け住まいに関わる職員等の看取りへの理解が深まるよう、看取りに関する研修のプログラムについて検討する。また、研修を通じて看取りに対する理解への影響を検証し、効果的な研修方法・内容について検討する。」

高齢者の終末期と救急医療の現場をイメージするためのVR



高齢者が生活者のまま老いや死に向き合ってゆける社会、それを医療がそっと支える仕組みについて、家族との対話のなかで「本気で」考えていくことが求められています。私たちは人生の最終段階において、どのように医療を活用したら良いのでしょうか。このVR作品は、いま、病院に運ばれ続けている高齢者の看取りについて、実感していただくことを目的としています。そして、このVR作品をきっかけにして、住み慣れた自宅や施設で老衰死を看取るという選択肢を考えていただければと思います。

Virtual Dementia Experience 2017/2～

VR認知症体験会

- ・ VR認知症体験会を開始して35,000人を超える人々が認知症を疑似体験した
- ・ バーチャルリアリティの技術が日本で初めて認知症教育に応用された事例
- ・ 全国の自治体、教育機関、医療介護関係者、一般企業へ体験会を拡充
VRを通じたコミュニティを広げる





「VR レビー小体病 幻視編」

レビー小体病当事者の樋口直美さん完全監修。
シナリオ作成、演技指導、映像チェックの全てを樋口さんが
行い、幻視の世界をありのままに伝えます。認知症の概念が
変わります。（レビー小体病発見者小坂憲次先生監修）